研究だより

秋田県立秋田きらり支援学校
No.1 令和8年 9月11日発行

拡大授業研究会より　　中学部２・３学年３組　音楽科　　帰れソレントへ

授業の概要　　【学習目標】　曲想を生かして表情豊かに歌おう

教材の特徴

●調や速度の変化を生かした表現の工夫
- 短調と長調の違い、速度の変化の効果を感じ取る

●カンツォーネの表現に触れる体験
- ドラマティックな曲想の変化
- 強弱や速度の大きな変化
- 独唱への挑戦

授業づくりの主な視点と手立て

- 個々の表現を大切にする
- 表現を可視化するための楽譜の活用
- 選択肢の提示
- 自分の思考や目標の文章化、可視化するためのワークシートの活用
- 相互評価を取り入れる

研究協議会より　【授業を見る視点】

自分の思いや意図を歌唱表現につなげるための手立てと生徒の学びの姿

グループ協議から多く挙げられた事実とその解釈

ラベルコミュニケーション（事実）
- ●「ミスっちゃった」「もっと手を上げられたな」などのつぶやきがあった。
- ●個別練習や発表で、自分の目標を意識して歌ったり、手を動かしたりしていた。

アクティブリスニング（解釈）
- ●自分の思い描いた表現と実際の表現を比べ、よりよく表現したいという思いをもったのではないか
- ●個別の支援や練習が、不安の軽減や自信につながり、自分なりの表現につながったのではないか

改善の方向性（グループ協議テーマ）と具体的な改善案

①問いかけの深化

「なぜそのように歌いたいのか」「どんな気持ちを表したいのか」と問い返すことで、表現の根拠を明確にする。

②理解と表現をつなげる

曲の背景や歌詞の意味、作曲者の思いを十分に理解し、自然で豊かな表現へ。

③自己評価の活用

動画を活用した振り返りや「もう一度歌いたい」思いを生かす再挑戦の場の設定。



指導助言

総合教育センター　教科・研究チーム
主任指導主事　鈴木智美　先生
- 曲の味わいを感じ取り、自分なりの表現につなげていた。既習の学びとのつながりや、ゴールを見通した指導の成果が表れていた。
- 今後は、「表現したい思い」を実現するための歌唱技能にも焦点を当て、思いと技能を結び付けた学びを深めたい。また、つまずきの理由を共有し、見通しをもたせる支援を大切にしたい。

総合教育センター　支援チーム
主任指導主事　進藤拓歩　先生
- 事実に基づく子どもの見取りと、ラベルコミュニケーションによる対話を通した授業研究は、授業改善につながる取組であった。
- 今後は、教科の目標・知識・技能・評価のつながりを整理し、自立活動の視点も単元構想等に明確に位置付けたい。
- 単元の終末に成長を実感できる振り返りを取り入れ、学習評価を単元・教育課程の改善につなげていきたい。

成果と課題

選択肢やワークシートを使用し考えを整理したり、個別、繰り返しの練習を行ったりしたことで、生徒は、自分の思いや課題を意識し、自信をもって歌う姿が見られた。動画で自分の歌い方を振り返ることで自分のよさや課題に気付くこともできた。

今後は、「なぜそう歌いたいのか」「どんな気持ちを表したいのか」と問いかけ、生徒の考えをさらに深めていきたい。「考える→表現する→振り返る」を繰り返し、曲の背景や歌詞の意味を表現につなげる学習を大切にしていきたい。